



No. 267

2006. 10. 20 発行

あこら札幌 連絡先
011-644-2927 細田

今月通信担当
谷 百合子

《 今 月 の 内 容 》

- * 雇用は均等ですか . . . 1~2頁
- * 今こそリブ! 講座に参加して . . . 3頁
- 忘年会のお知らせ
- * 女はみんな生きている . . . 4~5頁
- * Remember me . . . 6~7頁
- * 情 報 . . . 8頁

通信購読料(年間)1200円 郵便振替 02710-3-570 あこら札幌

雇用は均等ですか

K. S

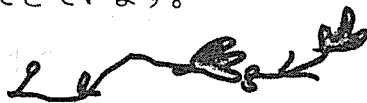
はじめに

朝日新聞の竹信三恵子さんから、改正男女雇用機会均等法の話をお聴く機会に恵まれました。彼女の言葉に耳を傾け、雇用は均等なのかどうか自分なりに考えてみました。



格差の拡がり

小泉内閣が政権を担当していた約5年の間に、様々な格差が拡大したのではないかと議論が政権末期に活発化しました。確かに、現在では全労働者の3人に1人が非正規雇用者(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)であり、女性に限れば半数を超えています。また、若年層の高い失業率(特に15歳~24歳の男子は10%近く、前年齢層の倍以上)、ニートの増加、フリーターの年齢上昇等は、少子化の原因の一つといわれています。人件費を削減し、雇用調整を容易にするための“合理的な選択”として様々な業種の多くの企業が非正規雇用を増やした結果、仕事に就いていても豊かさが実感できない「ワーキングプア」と呼ばれる不安定な階層が増加・固定化しており、国としても放置できないまでになってきています。



女性の賃金格差

私たち女性は、非正規労働者率の急激な上昇(昭和60年には31.9%、平成17年には52.4%)により、今では有期雇用が一般化し、新規学卒時から派遣労働を選ばざるを得ないような状況も生じています。平成17年の男

性一般労働者の給与水準を100としたときの女性一般労働者は67.1となっており、昭和60年の56.1に比べれば上昇したとはいえ、先進諸国における男女間の給与格差とは10~20ポイントも差が開いています。パートタイム労働者に至っては、男性一般労働者の46.3であり、しかも縮小のスピードは鈍化してきています。

改正男女雇用機会均等法

勤労婦人福祉法を改称し、いわゆる均等法が昭和60年4月1日から施行されて約20年。私が就職した頃は、男女別々に採用され条件も大きく違っていました。ご存知のように表面上は募集・採用、配置・昇進・教育訓練等々に渡って性別を理由とした差別は禁止されています。また、性的な嫌がらせも「セクハラ」という名を得て表面化したことにより、雇用環境は昔よりかなりクリーンになってきました。今回の改正は、差別禁止の範囲の拡大（①男性に対する差別の禁止、②降格、職種変更、雇用形態の変更、退職勧奨、雇止めも性別を理由とした差別の禁止事項に追加、③（一部の）間接差別の禁止）と妊娠・出産等を理由とする不利益取扱いの禁止等をポイントとするものです。妊娠・出産は前から禁止されていたものとばかり考えておりましたが、指針ではなく法律に明記され、「妊娠中や産後1年以内に解雇された場合、事業主が妊娠・出産・産前産後休業の取得その他の省令で定める理由による解雇でないことを証明しない限り、解雇は無効となる」ということですから、立証責任の転換によりこの分野は大きく改善することと期待しています。

均等法が改正されても均等ではない？

結果の平等は本人の努力等の要因にもよりますが、本人の責任によらないことで不利益を被るのが差別だといいます。行政が音頭をとって女性差別の地ならしをしようというのが均等法だと私は考えます。多くの女性の立場からすれば、コース別人事等も含めすべての直接、間接差別を禁止する法律が成立すれば、一番簡単だと思われるかもしれませんが、そういうものはなかなか根付かないような気がします。時間がかかっても社会情勢の変化を待ち、その少し先を目指して先導し、ソフトランディングをはかる高等戦術をとっているようにも見えます。今はまだ均等への〇里塚ですが、結果の平等を目標に努力を重ねていきたいと思っています。

「今こそリブ！ーウーマンリブ以降のフェミニズム」 に参加して

細田英理子

自由学校「遊」主催、「今こそリブ！ ジェンダーフリーバッシングなんかぶっ飛ばせ」の2回目の講座に参加した。講師の水溜真由美さんから「1960年代末から70年代にかけて起きたウーマンリブの運動は、性別役割分業意識を問い直そう。“女らしさ”の呪縛から自由になろうという事が主眼の運動で、制度上の平等、権利を獲得しようとしたそれまでの女権運動とは質的に違っていて、革新的だった」と話があった。若い人達はリブの意義、歴史を聞くという感じで熱心にその話をメモしていた。若い人には「歴史」であっても、私にとっては、まさに生きてきた道のり。いろいろな事を思い出しながら話を聞いていた。

後半の話し合いでは、その時代を生きてきた中高年の参加者から、それぞれのリブに対する思い、考えが語られた。私が思っているリブのイメージと他の人の捉え方が微妙に違っていることが分かって面白かった。リブとの出会い方、関わり方、その時期等で皆、それぞれ違うのだなあとと思った。

私はリブの大きな波が起きていた頃、地方の学生で、揶揄された報道しか知らず、リブが自分に関係のある事とは思っていなかった。その後就職し、職場の先輩女性達の話聞くうち、少しずつ平等の問題に関心を持つようになっていった。そういう中で、77～78年頃、「あごら」に出会う。遅ればせながらのリブとの出会い。目からウロコだった。私の個人的な問題だと思っていた“生き難さ”は私が“女である”事と深く関わっていて、“らしさ”や性別役割分業意識にとらわれているから苦しいのだと気付かされたからだ。以後、優生保護法改悪阻止の運動等様々な運動に関わってきた。

リブは私の原点。その頃はフェミニズムやジェンダーという言葉がなかった（私は知らなかった）ので、私にとっては女性解放運動＝リブ。私の中ではリブもフェミニズムもほとんど同じ意味合い、イメージだ。この日の中高年参加者達は、周辺にいた者も含め、何らかの形でリブに関わっていた人達だと思うのだが、71～72年当時のリブを知っている人の中には「行儀の悪い人達」「先鋭的」と感じた人もいたようで、「ヘー」という思いでその話を聞いていた。



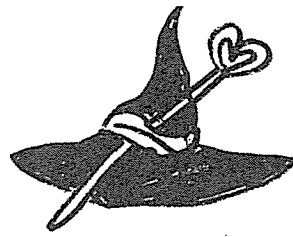
それにしても昨今の逆風。イヤな時代になったものだと思う。70～80年代、90年代前半まではフェミニズムの問題がマスコミで頻繁に取り上げられ、フェミニスト達がテレビ等でも大活躍していた。今はテレビをつければ保守的論客ばかり。ジェンダーフリーバッシングの張本人である山谷えり子が首相補佐官になる時代だ。右傾化している政府にマスコミもビビっているのか・・・？ あーあ、この国はどこへ行く！

忘年会のお知らせ

12月23日(土) pm 4:00～

細田宅 011-644-2927 *1品持ち寄りです。是非多数の参加を！

女はみんないきている



谷百合子

9月29日から10月3日まで東京に出かけた。

9月29日

29日は嬉しいことに、谷が来ると言うのでピアノのある会場を用意してミニコンサートを準備してくれた。「基地は要らない女たちの全国ネットワーク」のメンバーが中心になって呼びかけをしてくれた。東大近くの、60年代がそのまま残っているような出版社に、凄い人たちが集まって下さって、こちらのほうが恐縮してしまった。

「基地は要らない女たちの全国ネットワーク」は、橋本政権のとき、基地のたらい回しに抗議して、沖縄から150人の女子どもを招待し、大きなたらいを頭に載せて銀座をデモしたり、総理にも面会した。そのときに出来た会で沖縄の女たちに連帯する会として北海道から沖縄まで、女たちのメンバーがいる。今日は国会前、明日は沖縄、六ヶ所村と、フットワークの軽さには驚かされる。仕事を持ちながら大変な事と思うが、いつも励まされ、頼もしい仲間である。

原子力資料情報室の論客Bさん、核と原子力問題で本も出している鈴木真奈美さん(『拡大国化する日本』(平凡社新書)は、原発と核兵器の事が良くわかるお勧めの本です)。

プルトニウムが、初めて日本に帰ってきたとき全国講演をした鮎川さんは、今地球温暖化の危機の問題で世界的活動をしている。

最年少18歳のS君は5世代を掛けて性暴力をなくするジェネレーション5のプログラムについて話してくれた(先月号のあごらで紹介)。

日野のHさんは石原都政での教育問題の闘い報告を、市川のTさんは無防備地域宣言の意義と取り組みのお話で市が署名活動に協力的であったこと。それは直接請求活動は法で認めているものだから、市の施設での署名活動はOKとの事。他市では例がないとの事でした。

音楽と活動報告の会とはいえ報告者の豪華さと、内容の重さに圧倒されどうしの東京ナイトコンサートでした。

鎌仲監督と再会 東京の夜は更けて

ミニコンサートのあと、お開きかと思いきや次があるとのこと。「六ヶ所村ラブソディ」の監督ときちゆみさんとのトークショウがあり鎌仲さんも待ってるよとのこと。東京はとにかく足で歩く事を身にしみながら駆けつけた。地下にある小さな劇場?のようなところは熱気に満ちていた。札幌とは又違うハイカラな人々のハイカラな雰囲気異空体験のようで体が宙に浮いた感じがした。東京の皆さんはあらゆる情報に囲まれ素早い行動を余儀なくされ常にうごいている。空気も悪いだろうし決して住みよくはないのだろうが、様々な事柄の関連性が見えてきてやる事も多いがやりがいも感じるのだろうと思った。ほんとに皆さん凄い。札幌で運動が広がらないと愚痴など言ってもらえない。

北朝鮮脅威論が蔓延している今、原爆5000発分ものプルトニウムを抱えアジアへの核武装脅威となっている日本をどうするか?東京で、世界最大の核施設である六ヶ所村の再処理工場の危険性を知らせるのは重要である。鎌仲監督の仕事の意味は大きい。颯爽と風を切って鎌仲ひとみは今日も行く。期待してるよひとみちゃん。



10月1日

友人の勧めもあり品川きゅうりあんで行われた9条フェスティバルに参加した。一言で言えばすばらしかった。オープニングのダンスからこれはいけると言う予感がした。9条を守る会が各地にたくさん出来ていてそれはそれで喜ばしい事であるが欲を言えば何か暗い。

守ると言う響きからして後手に回っている観がある。今回のオープニングは若い人が来たくなるヒントをもらったような気がする。1階から6階まで、映画あり講演あり食べ物あり展示あり芸術ありどこに行くか欲張って走り回った。その中のいくつかを報告。

北御門さんと非暴力

ビデオ上映で徴兵拒否をした北御門二郎さんの映像を見た。トルストイの翻訳家としても知られ熊本で、「この世で1番罪のない仕事」として農業を選んだと言う。会場で北御門さんの『ある徴兵拒否者の歩み』(地の塩書房)の本とビデオを買った。北御門さんの言うように、イワンの馬鹿の生き方こそ今人類に必要な哲学ではないのか?無防備宣言をして私たちは殺しも殺されもしないと言う事を1日も早く、あちこちでもぐらたたきのように声を上げなければ、国のいうまま戦争にまきこまれる。北御門さんのような方が戦時中にいたことに勇気をもって帰った。その後札幌に戻ってから10月14日「蟻の兵隊」(シアターキノにて27日まで上映中)をみた。奥村和一さんは中国で終戦を迎えるが日本政府に見捨てられ仲間と裁判を起こした。そして彼は自分が中国人を殺した地を訪ねる。中国の人々の暖かさ対照的な日本政府の態度のありようは私たちも知る必要があるのではないだろうか?

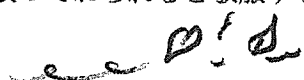
悉るべき劣化ウラン弾の被害

パークレイから来たロウレン・モレさんのはなしを聞いた。劣化ウランとガン、や、白血病の事は知っていたが糖尿病もそうだとするのには驚いた。講演語モレさんは、クウェーカ教徒で、「だから私絶対非暴力なのよ」と無防備のはなしで盛り上がった。思わず2千円もする『内部の敵』という分厚い専門書を買ってしまった。



その他の催し

参加は出来なかったが面白そうなコーナー紹介。漫画展「日本3K 社会時代」、座談会「元先犯たちの告白」「元兵上と若者との座談会」「日の丸・君が代の強制者・石原都知事を裁こう」「石川筆子の生涯」「イスラエルのレバノン攻撃」「ある戦犯の謝罪」「ローザ・ルクセンブルグ」映画などなどまだまだたくさんで書ききれない。なんとあごらの斎藤千代さんも参加されていてご挨拶した。お元気そうで本当に長い事頑張っておられると敬服するばかり。



10月2日

直接請求まじかの会議があるという目黒区の無防備宣言東京事務局訪問ので伺った。会議は思ったより穏やかな雰囲気ですすめられていた。長年政府はジュネーブ条約を批准しなかったが急いで批准したのは戦争をしやすくするためであるとの事。しかしなかには、無防備地域宣言も含まれているのだ。軍人と文民(住民)を区別し、丸腰の一般市民を無差別に攻撃してはいけない、とある。又、攻撃の目標となる軍事施設や軍隊があってはならない。したがって平和時から攻撃目標となるものは除くというのが無防備宣言である。

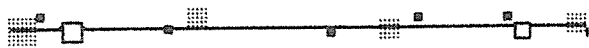
私は9月17日に呼びかけ、来秋をめざして「無防備宣言を目指す札幌の会」を立ち上げた。戦争をしかけられない町を日本中に沢山つくっていききたい。



東京の旅、後半は学生時代の新聞部の友人Nさんとのんびり楽しんだ。Nさんの温かい人柄に命の洗濯をさせてもらった。

「基地は要らない女たちの全国ネットワーク」のメンバーKさんもAさんも激動の東京の中で身体を張っている!私も寒さこらえて頑張るねー。

Remember me ... ♡



Tabiurara

むか一し、僅かな時期ですが「あごら」で過ごしておりました。
まだまだ圧倒的に専業主婦が多い時代、あごら札幌のお陰で既婚・子持ちながら資格を得て再就職ができ、念願の経済的自立を果たすことが出来ました。
超多忙生活が続きましたが、あごら札幌通信購読はずっと続けています。
あごら会員のほうは継続中だがやや惰性的傾向、通信は発行から30年は過ぎたでしょうか？その努力にいつも頭が下がります。

私も何か書きたいなと思いつつ、ついつい数年が過ぎてしまいました。最近、こういう自分の状況にやや危機感を覚え、色々考えた結果、書くネタを見つけれないのと、書きまとめる能力が衰えているので、最後の手段で、昔の新聞・雑誌への投稿記事、様々な会議・シンポジウム・ミニコミ誌原稿等々ファイリングしてあったものを引っ張り出し、そっくりそのままこちらに投稿することにしました。
書き写すだけなら書くよりもずっとラクだし、自分の記録としてそのままCD-Rにとっておける、更にこちらに出していただけるなら、そういう時代もあったのか〜と書いていただけるかも・・・と考えた次第です。

文は「原文まま」なので今書くと非常に幼稚で感情的で、躊躇しましたが、あえて恥を晒すことにしました。
又、内容も色々、書きたい放題です。。



☺ 大韓機事件は一つの戦争

本誌大韓航空機事件の遺族による「消えない疑惑」を読んで、本当に今は平和なのかという問いに、ノーと言わざるを得ない現実を読み取りました。

事件が起きた時こんなことが実際に起きてよいのかという驚きと、すぐそこにある米ソ核戦争の危機を感じ、背筋が寒くなりましたが、事件後一年たった今でもやはりこれは一つの「戦争」なのだという認識を禁じ得ません。

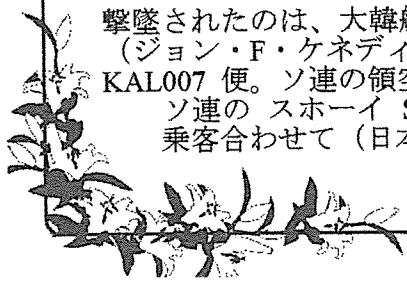
事件後アメリカがソ連への格好の非難材料として声高に叫び、軍事予算を大幅に増やした結果、軍拡路線を強めたことは、人類の滅亡に一步近づいたと言っても過言ではないでしょう。

おとり説やスパイ説など実に様々な憶測が流れる中、悲嘆にくれながらも気を取り直し、必死に真実を追究しようとするご遺族の姿には胸をしめつけられずにはいられません。亡くなった筆者のご子息の言葉、「平和に生き続けること」との願いを無にしないためにも、また私たちと子供達の未来のためにも、遺族の方々に限らず私たち一人ひとりが決して事件を忘れることなく、真相追求の努力をし、このような「戦争」が二度と再び起こることのない平和な社会を築かねばならないとつくづく思いました。

<新聞投稿 1984・9・5 >

1) 大韓航空機撃墜事件(だいかんこうくうきげきついじけん)は、1983年9月1日に大韓航空の旅客機が、ソビエト連邦の領空を侵犯したためにソ連の戦闘機により撃墜された事件。

撃墜されたのは、大韓航空のボーイング 747-230 型機(HL7442)で、ニューヨーク(ジョン・F・ケネディ国際空港)からアンカレッジを経由し、ソウルに向かう KAL007 便。ソ連の領空を侵犯したあと、領空から出て 30 秒後に、樺太の近海でソ連の スホーイ Su-15TM 迎撃機からミサイル攻撃を受け墜落した。乗員・乗客合わせて(日本人乗客 28 名を含む) 269 人が死亡。





この事件には、ソウル経由で日本への帰国途上であった日本人乗客も多数搭乗していたことや、日本の自衛隊が事件の様子をレーダーなどで観測・傍受しており、その傍受内容が国連安全保障理事会で公開された等、日本も深く関わっている。

✂大韓航空機では、この事件の4年後にテロ事件にあっています。

2) 大韓航空機爆破事件は、1987年11月29日、イラクのバグダッドからアラブ首長国連邦のアブダビ、タイのバンコクを経由して韓国のソウルへ向う途中の大韓航空 858 便・ボーイング 707 型機 (登録記号 HL7406) を朝鮮民主主義人民共和国 (北朝鮮) の工作員が時限爆弾で飛行中に爆破したテロ事件。

当時金日成の後継者に指名されていた息子の金正日が事件の指導・総指揮を取ったと言われている。目的は翌年のソウルオリンピックの妨害との推測が大。

連行された北朝鮮の女性工作員 (男性はカプセル入りの自殺用毒薬で自殺、女性は自殺を図ったが一命を取りとめ韓国へ引き渡された) は一連の犯行を認めたが、この女性は北朝鮮工作員の金賢姫 (… キム・ヒョンヒ) で、「李恩恵」 (… リ・ウネ) と呼ばれる女性 (日本から北朝鮮の工作員に拉致された田口八重子さんとみられている) に教育を受け、実在の日本人名を使用し日本人になりすましていた。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より抜粋



☺ 女たちの北京

女ってスゴイ!

女たちが世界中から集まった北京女性会議NGO (非政府組織) フォーラムの印象はこの一言に尽きた。

韓国、タイ、スーチー女史解放に勢いづくミャンマー、旧ソ連の独立国・グルジア (ジョージア) 他・飢えに苦しむエチオピア・ソマリア・アパルトヘイト解放後の南アフリカ、ボスニア、核問題に揺れるフランス、北欧、アメリカ・・・数え切れない国の人々の声を聞いた。

現在世界の貧困層の70%は女性だという。

それぞれのワークショップでは、過去の歴史や現在の問題を抱えながらも、女達の目は未来に向かって輝き、困難に立ち向かう迫力がみなぎっていた。

私たちグループも小さなワークショップを開き、共有し合える人々とのつながりを得た。

本当は中国に行く前、私はとても不安だった。

私のようなおばさんがノコノコと出かけて行っても、「円高に便乗した日本の女がうろついているだけ」と非難されそうで怖かった。

しかし私自身、得たものは大きい。

娘の就職、息子の留学で「空ノ巣症候群」になりかけていた私にも、以前のパワーがよみがえってきた。それだけでよしとしたい。

大きなおなかを抱えた人や赤ちゃんを抱いた人、杖をついたり車椅子のおばあさんもいた。

北京に集まったのはみんな普通の女たち。

それぞれがパワーを持ち寄り、分け合ってそしてそれぞれの国へと帰って行き、いつもの日常の中でこの集いを糧として暮らしを営んでいく。

男も女もさらなる自己解放のために、西暦2000年第5回世界女性会議に向けて、今日をまた人生のスタートとしたい。

<新聞投稿 [1995・9・10]>

今後も折々に投稿できればいいな、と思っています

久しぶりに長年の会員Taburamさんから原稿届きましたので
原文のまま載せました。 編集部

INFORMATION

☆ 10月25日(水) 18:00から かでる2・7 かでるホール

教育基本法を変えてはいけない! 市民集会

靖国・教育・憲法・・・この国のゆくえ 主催:札幌弁護士会 講師:高橋哲哉

☆ 2006年11月2日(木) 18:00から 共済ホール(北4条西1丁目)

連続企画「憲法を考える180日」・第1回 「憲法『私』論(仮題)

主催:札幌弁護士会 講師:・水島朝穂(早稲田大学教授)

☆ 2006年11月4日(土) 9:00~15:30 かでる2・7 820研修室(北2条西7丁目)

グルッと北海道 性と生を考えるセミナー 講演① 関口久志さん 「性の健康実践とは」

講演② 村瀬幸浩さん 「誕生からの“ふれあい”とは」

主催:“人間と性”教育研究協議会「グルッと北海道」セミナー実行委員会

連絡先:性教協いしかりサークル 細田英理子

☆11月4日

無防備学習会

れんらくさき 谷(664-0632)

1. 無防備宣言の意義 13時~16時 クリスマンセンター4階

前田朗さん 佐藤直己さん

参加費: 1000円

2. ジュネーブ条約から学ぶ平和 18時30分から エルプラザ4階

前田朗さん(国際戦犯法廷代表 無防備宣言呼びかけ人) 500円

☆12月9日(土) 13:30~15:30

性教育学習会 「大学生の性意識」 エルプラザ(北8西3)

お話 今野洋子さん(大学教員)

参加費 500円

主催 性教協いしかりサークル(詳細は細田644-2927まで)

☆ 「松井やより全仕事展」 12月10日(日)~16日(土)の7日間

会場: 北海道クリスマンセンター 2F ホール(札幌市中央区北7西6)

- 内容
- 1) 女たちの戦争と平和資料館(WAM)で行われた「松井やより全仕事展」の展示
 - 2) 「女たちの戦争と平和資料館WAM」・VAWW-NETから西野理美子さんを招いての講演会
 - 3) オープニング「女性たちの今:私たちは主張する」(仮題)というテーマで、リレー・トーク
 - 4) 実行委参加団体による自主企画(演劇、朗読、VTR、スライド上映、ワークショップ等)

一年中、今が一番、さの悲し、季節である。秋の日の夕暮りの～なんと言われたい!
 此の陰(下)可部首相のこころは、はじか、離れぬ。北朝鮮を4でなく、PXIIか
 ほかの核所有国を揃って核をやめた!と言わせなせ! 猫首に鈴を7つ、月か